

# 令和6年度カスケード及びその 周辺の管理について

中川悠・荒木大蔵・西内良

## はじめに

カスケードでは、鉢・プランター・大型コンテナ・ハンギングバスケット、花壇（委託花壇及び自主花壇）・立体花壇（グローバル）を使用して季節の草花等を常時展示している。

## 植栽について

カスケード周辺から正面ゲート、周辺花壇に植え付けた植物の種類および展示期間は表1～表4の通りである。

## 春季

4月は前年度の冬に引き続きパンジーやキンセンカ、チューリップ等を中心とした展示を行った。花色は、ピンクや黄色といった暖色を多めに用いて暖かさを演出し、アクセントとして白や寒色も使用した。

パンジーについては、これまで花壇で使用していた‘よく咲くスマレ ソーダ’の花付きが良過ぎることから灰色かび病等が発生しやすく、花がら取りの負担も大きいため、今年度の冬花壇（令和6年11月植えつけ）からは「よく咲くスマレ」シリーズの中から他の水色系の品種を使用してみることとした。また、カスケード前花壇の上段において、「よく咲くスマレ」に斑点病と見られる病害が発生した。斑点病は水はけが悪い場所や連作によって発生が助長され、当該花壇ではその条件を満たしてしまっている。そこで、水はけの改善のために深耕と土壤改良資材のすき込みを検討している。

ゴールドウィーク以降は、パンジーやキンセンカ等の冬から展示を続けたものを抜き取り、ペチュニアやクレオメ、ベゴニア、マリーゴールドを植え付けた。また、今年度は、これまで使用したことのない以下の品種も導入した。新しく導入したのは、ロベリア‘スカイフォール アクアブルー’、‘スカイフォール インディゴアイ’、ペチュニア×カリブラコア‘ビューティカル シナモン’の3品種である。これらは、夏季も大きく入れ替えることなく、展示を

続けた。

## 夏季

7月下旬には大鉢のクレオメを栄養系コリウスと入れ替えた他、タイタンビカス（宿根性のハイビスカス属 種間交雑種）、サンパチェンス（インパチェンス属 種間交雑種）、デュランタ、ランタナを追加で展示した。

春から新しく導入したロベリアは、2色とも6月上旬まではこんもりとボリュームのある姿を維持した。6月中旬にはどちらも切り戻しを行なったが、‘スカイフォール インディゴアイ’は切り戻し後きれいに咲き揃わず、2度目の展示を行ったのは‘スカイフォール アクアブルー’のみであった。

ペチュニア×カリブラコア‘ビューティカル シナモン’は、既に使用している「スーパーチュニア」シリーズ（ペチュニア属 種間交雑種）等と異なり、あまり茎が伸びず、よく分枝するため、こんもりとドーム状に生育した。そのため、この品種は花壇ではなく、大鉢で1株ずつ栽培する方法が向いていると思われる。また、雨が降っても花が傷むことが無く、茎も丈夫であった。さらに、花色も他の品種には無い色が多いことから、今後も数株ずつ使用していこうと考えている。なお、茎があまり伸びず、一度形が崩れると切り戻して整えることが少し難しいため、形が崩れる前にこまめに切り戻す方が良いと思われる。

グローバル下の自主花壇は、‘スーパーチュニア ビスタ シルバーベリー’のみ植栽していたが、7月上旬ごろになると株の勢いが衰えて、枯れ枝が目立つようになってしまった。そこで、応急処置として中心部の株を抜き取って花壇の縁に沿って移植し、空いた部分にはペンタス「グラフィティー」シリーズと栄養系コリウスを植え付けた。生育不良の原因は、切り戻しが必要なほど生育する前に調子を崩したことから、昨年度のように切り戻し・追肥の不足によるものではないと考えている。さらに、今年度は6月後半から7月前半にかけて雨が続きことが多かった。このことから、土壤の水はけの悪さと、雨が続いたことによる蒸れが原因なのではないかと考えた。そのため、次回の植替でバーク堆肥をすき込むこととした。

イベント広場北花壇では、これまで使用してきたランタナ「スーパーランタナ」の新色、「スーパーランタナ トロピカルサンセット」を導入した。生育具合は、「スーパーランタナムーンホワイト」と同程度で、病害虫の発生も無かった。花色も黄色・オレンジ・ピンクが混ざっており、南国風の色合いで夏らしさを演出できた。

## 秋季

9月下旬には、大鉢のアンゲロニアやランタナをコスモスとジニア「プロフェュジョン」に植え替えたほか、トレニア「カウアイ バーガンディー」をサルビア・スプレンドゥス、テランセラ (*Alternanthera ficoidea*) に植え替えた。また、ジニア「プロフェュジョン」のみの鉢やアルテルナンテラ「パープルプリンス」のみの鉢、コスモス「キャンパス」シリーズやコスモス「レッドイリュージョン」とアルテルナンテラの寄せ植えを作成し、展示した。

コスモスとアルテルナンテラの鉢については、当初はコスモスと銅葉のガーデンレタスの寄せ植えにする予定であったが、レタスの播種時期が遅すぎたためコスモスの開花に間に合わず、代わりにテランセラを使用した。

グローバル下花壇については、夏季の応急処置の際に花壇の外周に移植した「スーパーチュニア ビスタ シルバーベリー」を全て抜き取り、そのスペースにはサルビア・スプレンドゥスとテランセラを植え付けた。

## 冬季

今年度は10月中旬を過ぎても日中の気温が25度前後と高かったため、11月に入ってから夏～秋の植物が調子良く生育していた。しかし、季節感の演出の観点から、11月中旬以降に少しずつ冬物の植物への植え替えと鉢の入れ替えを進め、12月中旬には全て冬物となった。

使用した植物は、パンジー「よく咲くスマイル」シリーズ、チューリップ、キンセンカ、パルドサム「スノーランド」、シロタエギク、プリムラ「アラカルトシュシュ」、チェイランサス「シュガーラッシュ」、ストックで、これらを用いて大鉢や寄せ植えを作成した。なお、「シュガーラッシュ」や「よく咲くスマイルブルーフィズ」、「よ

く咲くスマイルカシス」、「よく咲くスマイルクランベリー」は今回初めて導入した品種である。

「シュガーラッシュ」は、一重咲きではあるが冬の植物の中では草丈が高く、花色も豊富で、香りもあることから、寄せ植えの主演として使用した。「よく咲くスマイル」の「よく咲くスマイルブルーフィズ」、「よく咲くスマイルカシス」、「よく咲くスマイルクランベリー」は濃くハッキリとした色調のため、寄せ植えの締め色として適している。なお、これらの品種の生育加減については、現時点（12月中旬）ではどれも病害虫等の発生も無く、順調に生育している。

グローバル下花壇は、11月下旬にパルドサム「スノーランド」とチューリップへの植え替えを行った。11月下旬の時点では、コリウスやテランセラ等はまだ見頃であったが、季節感の演出と新たに植え付ける苗の劣化を防ぐため、植え替えることとした。この花壇は水はけが悪かったため、今回の植え替えでは、水はけの改善を目的として植付け前に深耕とバーク堆肥の追加を行った。剣先スコップを用いて掘ってみると、花壇の作土は約30cmで、その下には硬い真砂土の層が存在していた。そのため、真砂土の層を約20cm崩してバーク堆肥を追加し、作土層の土と混ぜ合わせてから植付けを行った。なお、この植え替えでは、グローバルの左側の花壇のみ深耕を行い、右側はバーク堆肥の追加のみにとどめた。次回は右側の深耕を行う予定である。





